

令和3年1月13日

南の風 For Junior28

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

緊急事態宣言が発出されました。なお一層気を引き締めて生活しましょう。前号の続きです。

2Q です。東京成徳はディフェンスをマンツーマンに戻し、機を見てオールコートでのゾーンプレスを敷きます。桜花は-halfコートでのマンツーマンを続けます。

最初のシュートは、またしても桜花の朝比奈選手がドライブで決める。パスフェイクから一気のドリブルでディフェンスを抜き去った。この時アマカ選手が、自分のディフェンスをクリアアウト（自分のディフェンスをシールしてヘルプさせない）したのも見逃せないプレーであった。

成徳も 負けじと4番山田選手がドリブルスクリーンから鋭いドライブで得点する。

ここからお互いが入り合いになる。桜花はディフェンスのずれを利用した、5番前田選手の3P やアマカ選手のエルボーからの豪快なドライブインや、朝比奈選手とのハイローの合わせで得点する。成徳は8番小島選手のバックドア（裏を突くプレー）や、山田選手のトップの位置からのジャンプショットで対抗する。さらに、6番須田選手のトップからのドライブレイアップ、10番佐坂選手のドライブからストップジャンプショットも決まる。そして小島選手が朝比奈選手のボールをスチールしてドリブルシュートを決め30対24の6点差となったところで桜花がタイムアウト。

タイムアウト明け、桜花はアマカ選手のリバウンドシュートや朝比奈選手のローポストへのフラッシュからのシュートで差を広げに掛かる。成徳は、古谷選手からのパスを受けた小島選手のバックシュートや、佐坂選手のロングシュートが決まりついていく。さらに 13 番金子選手の3P やドライブショットも決まった。

桜花は何とか引き離そうと、前田選手のドライブショット、江村選手からパスを受けたアマカ選手がゴール下のシュートを立て続けに決める。また江村選手の鋭いドライブに、成徳がたまたまファウルしてフリースローを2本沈める。

結局第2Q は両チーム一歩も譲らず、21対21という結果となり、前半を終了して42対33で桜花が9点リードで終えた。

たいへん見ごたえがあった第2Q でした。桜花はアマカ選手、朝比奈選手の合わせに江村選手、前田選手のジャンプショットや3P を絡めた展開や、アマカ選手のドライブもあり多彩でした。成徳としては、アマカ選手は1人では守りきりないので、ヘルプに行かざるを得ない。また朝比奈選手も守らなければならないので、ローテーションとボールの動きを読むことで対応するが、そうすると江村選手や前田選手が、どうしてもノーマークになる瞬間が出てきてしまう。そこを突かれるケースがありました。

一方の成徳は、控えの選手の能力が高くシュート確率も高い選手が多かった印象です。またたいへん思い切りがよく、迷わずリングに向かっていく感じでした。「空いたら打つ」という信念を選手全員が持っているようでした。またディフェンスも足がよく動き、江村選手に付いた山田選手のボールマンディフェンスは、ワンアームを常に維持しプレッシャーがよく掛かっていたと思います。今大会で一番、江村選手のプレーが制限されていたように見えました。